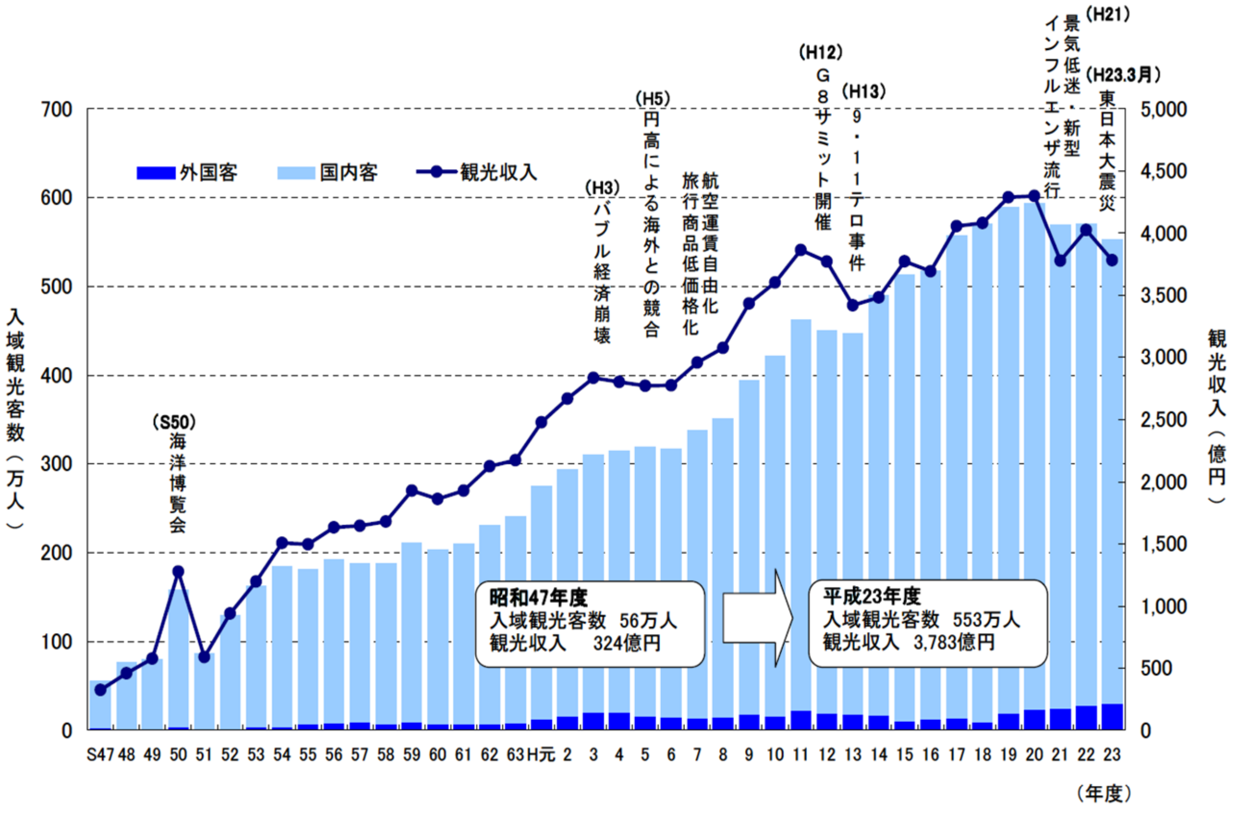
２．沖縄県の観光動向

沖縄県の観光動向として、(1)来沖日本人観光客の動向、(2)来沖外国人観光客の動向、(3)修学旅行の動向、(4)MICE の開催実績、(5)観光客の消費動向、(6)観光立県の推進について整理しました。資料は、平成 23 年度観光要覧(沖縄県)、平成 23 年度外国人観光客満足度調査報告書(沖縄県)、平成 23 年度観光統計実態調査(沖縄県)、観光収入増加対策緊急調査事業報告書(沖縄県)、MICE 開催実績及び開催予定統計調査・H23 年度版(沖縄コンベンションビューロー)を参考としました。

（１）来沖日本人観光客の動向

①入域観光客数及び観光収入の推移

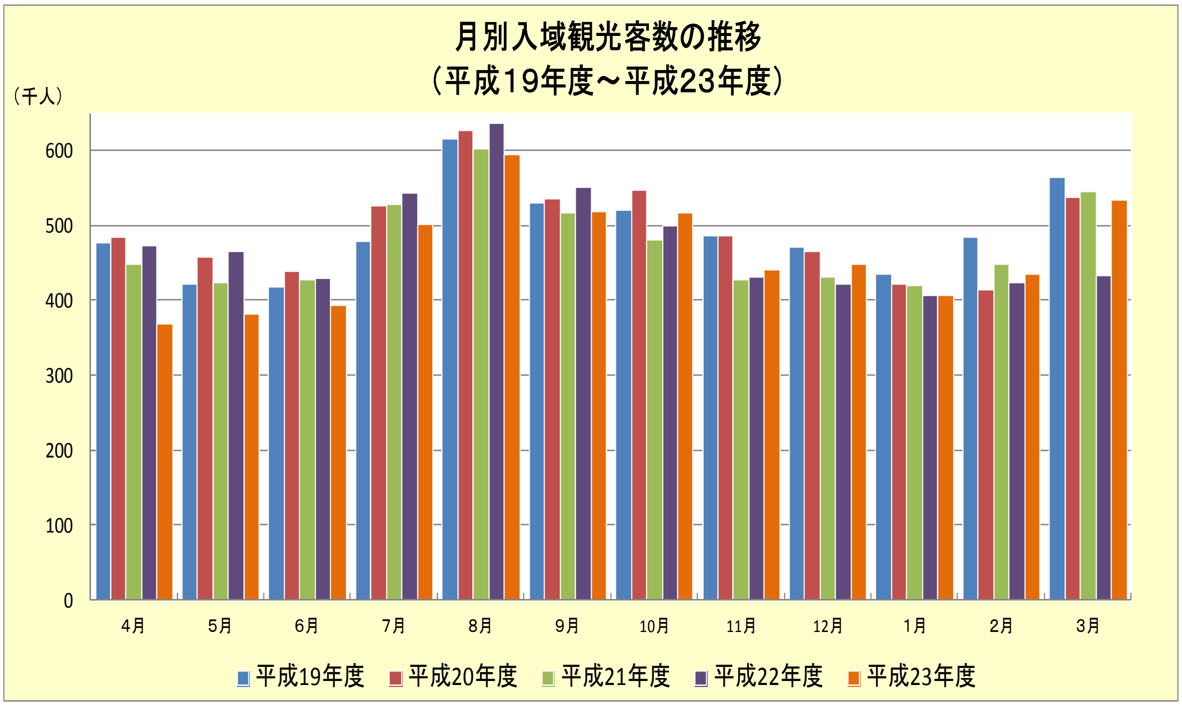
平成 21 年は「新型インフルエンザ」や円高による海外旅行の増加及び高速料金の値下げによる「安・近・短」志向などにより入域観光客数・観光収入ともに減少に転じています。平成 22 年は国内路線縮小影響を受けるものの、国際映画祭、高校総体等各種イベントの開催により前年実績を上回ったが、平成 23 年は東日本大震災の影響により減少となっています。



出展：観光要覧・H23 年版

②月別入域観光客数の推移

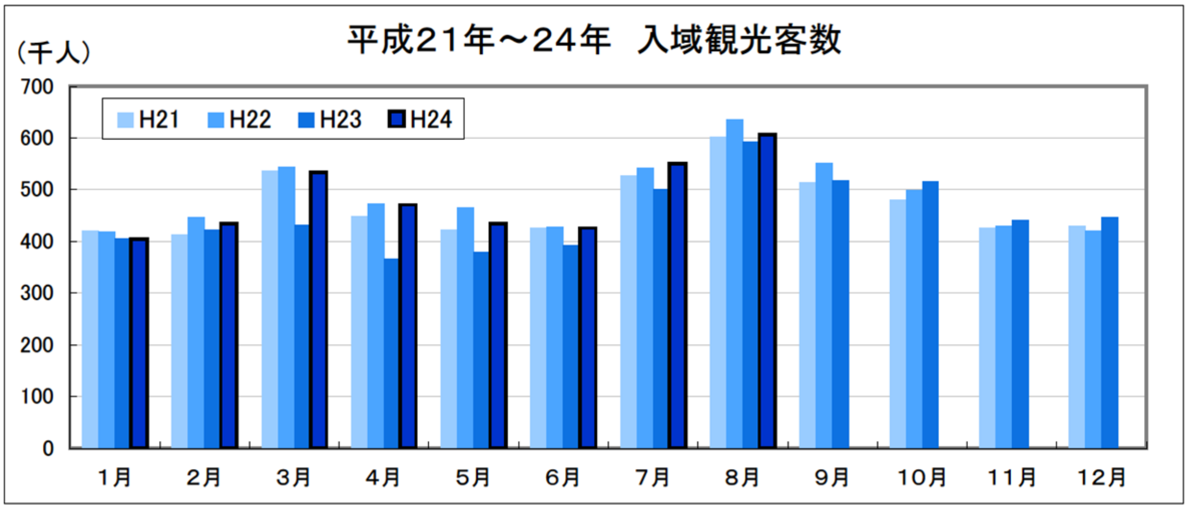
全体的には、8 月、3月、9月、7月、10 月の順で来訪者が多くなっています。H23 年前半は、東日本大震災の影響により伸び悩んだが、後半は回復してきています。H23 年 8 月は、5年振りに60万人を下回りました。



出展：観光要覧・H23 年版

③入域観光客数

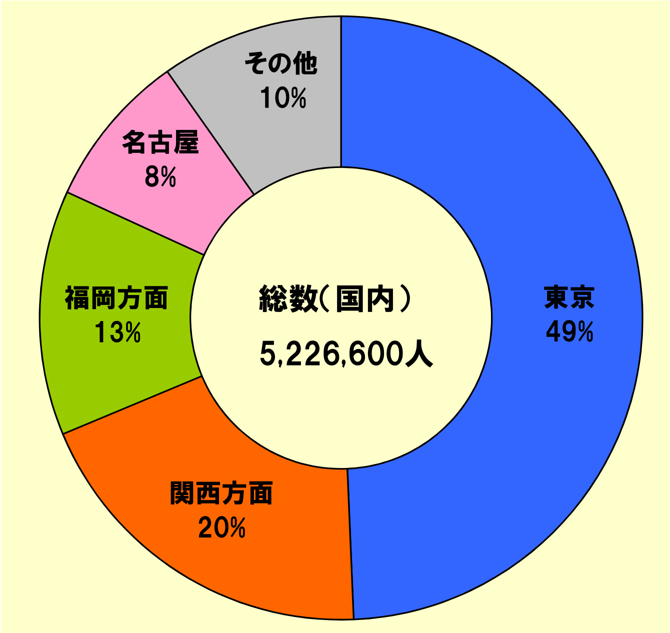
H24 年1月からH24 年８月の入域観光客数の状況をみると、沖縄への旅行需要は比較的安定しており前年度実績を上回っています。国内客の今後の入域状況は、海外競合地、東京方面を含む東日本方面の旅行の需要増加の影響により伸び悩みが懸念されるが、関西方面の LCC 就航等などの集客も期待されており、堅調な推移が見込まれます。外国客の今後の入域状況は、対前年と比較した場合、航空機の便数は増加しているが、今後は領土問題による訪日旅行の自粛等の動向について留意していく必要があります。



出展：観光要覧・H23 年版

④平成 23 年度地域別入域状況

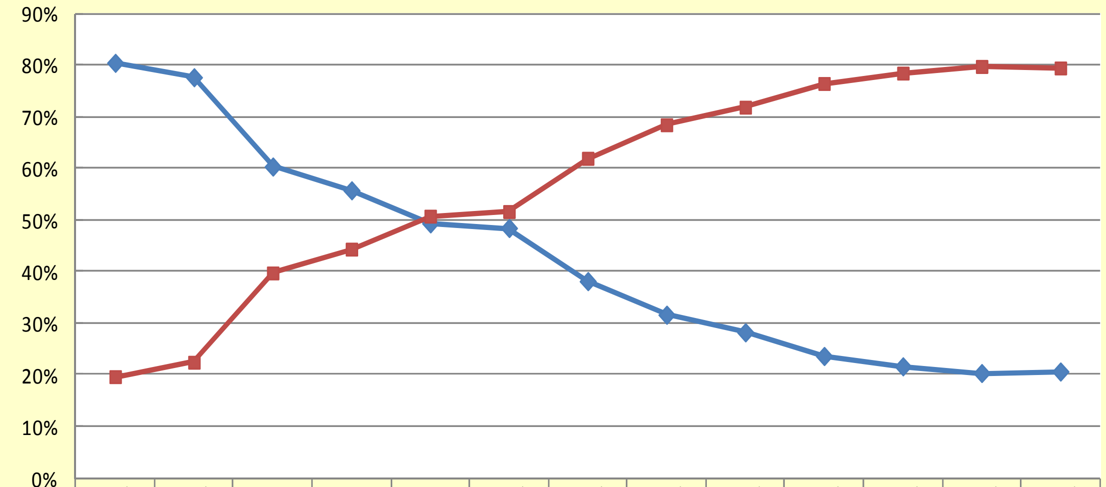
東京方面からの入域観光客が、約半数を占めています。続いて関西方面が約2割、福岡方面が1割強となっています。



出展：観光要覧・H23 年版

⑤ビギナー・リピーター率の推移

H9年度を境にリピーターがビギナーの比率を上回っています。H19 年度からはリピーター率が7割を超え、H23 年度のリピーターの比率は79．4%となっています。

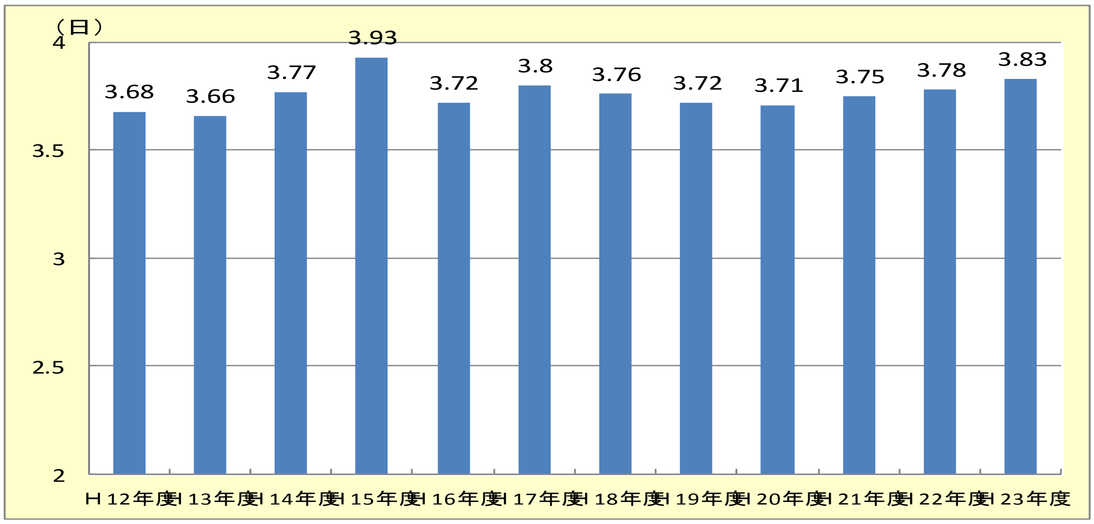


	S58年度	S62年度	H3年度	H6年度	H9年度	H12年度	H15年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
ビギナー	80.4%	77.6%	60.3%	55.7%	49.3%	48.4%	38.1%	31.6%	28.2%	23.6%	21.6%	20.3%	20.6%
リピーター	19.6%	22.4%	39.7%	44.3%	50.7%	51.6%	61.9%	68.4%	71.8%	76.4%	78.4%	79.7%	79.4%

出展：観光要覧・H23 年版

⑥平均滞在日数

日本人観光客の平均滞在日数は、平成23年度では 3.83 日と「2 泊 3 日」が主流となっています。平均滞在日数は、平成20年以降は、僅かではあるが年々増加しています。

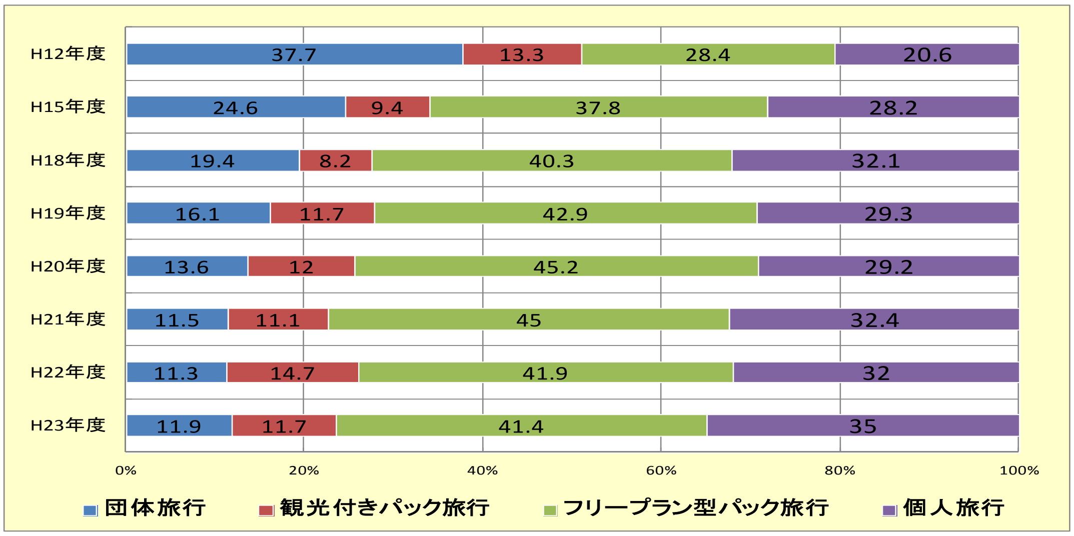


滞在日数	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
日帰り（1日）	1.2%	0.0%	0.7%	0.6%	0.4%	0.7%
1泊2日（2日）	12.1%	11.1%	11.3%	11.6%	9.1%	12.2%
2泊3日（3日）	41.3%	43.0%	41.2%	40.7%	39.1%	37.1%
3泊4日（4日）	29.3%	31.4%	30.5%	30.7%	31.9%	29.7%
4泊5日（5日）	9.2%	8.7%	9.6%	9.8%	13.0%	12.2%
5泊6日（6日）	2.3%	2.0%	2.7%	2.8%	3.0%	3.2%
6泊7日（7日）	1.2%	1.1%	1.8%	1.2%	1.3%	1.5%
7泊8日（8日以上）	3.4%	2.6%	2.3%	2.5%	2.2%	3.4%

出展：観光要覧・H23 年版

⑦旅行形態

リピーターの増加に伴い、添乗員付きでスケジュールのほぼ決まった旅行形態の「団体旅行」は減少傾向にあります。 自由にスケジュールを組める旅行形態の「フリープラン型パック旅行」と「個人旅行」を合わせた比率は近年7割を超えて推移しています（H23年度は 76.4%）。

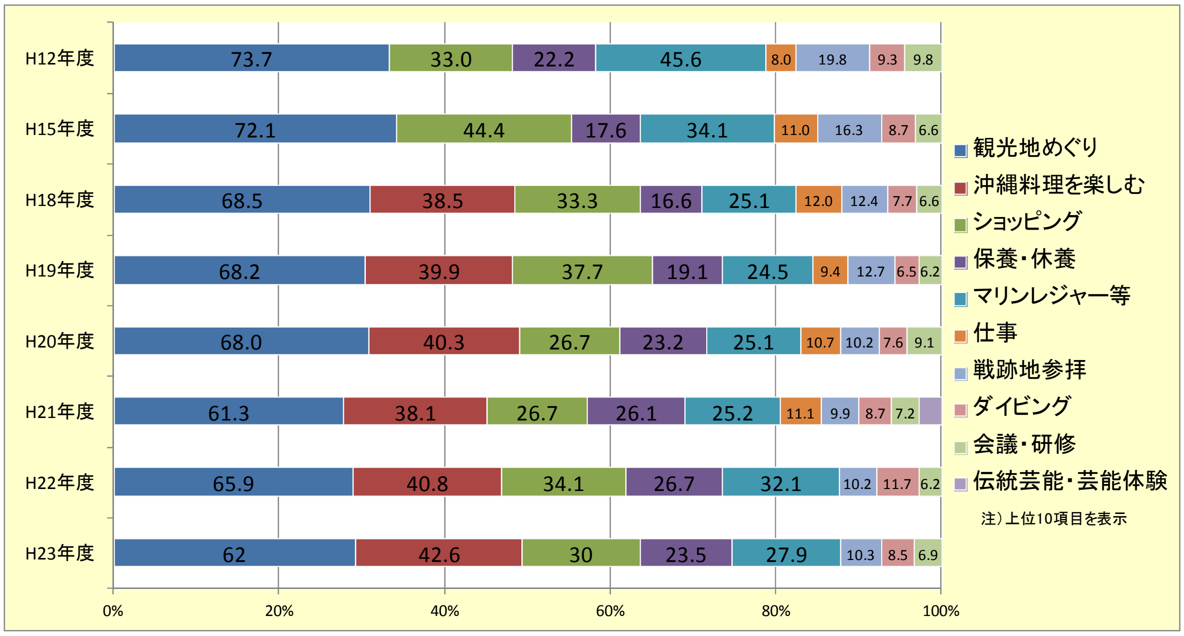


出展：観光要覧・H23 年版

⑧旅行目的の推移

○旅行内容別シェアの変化

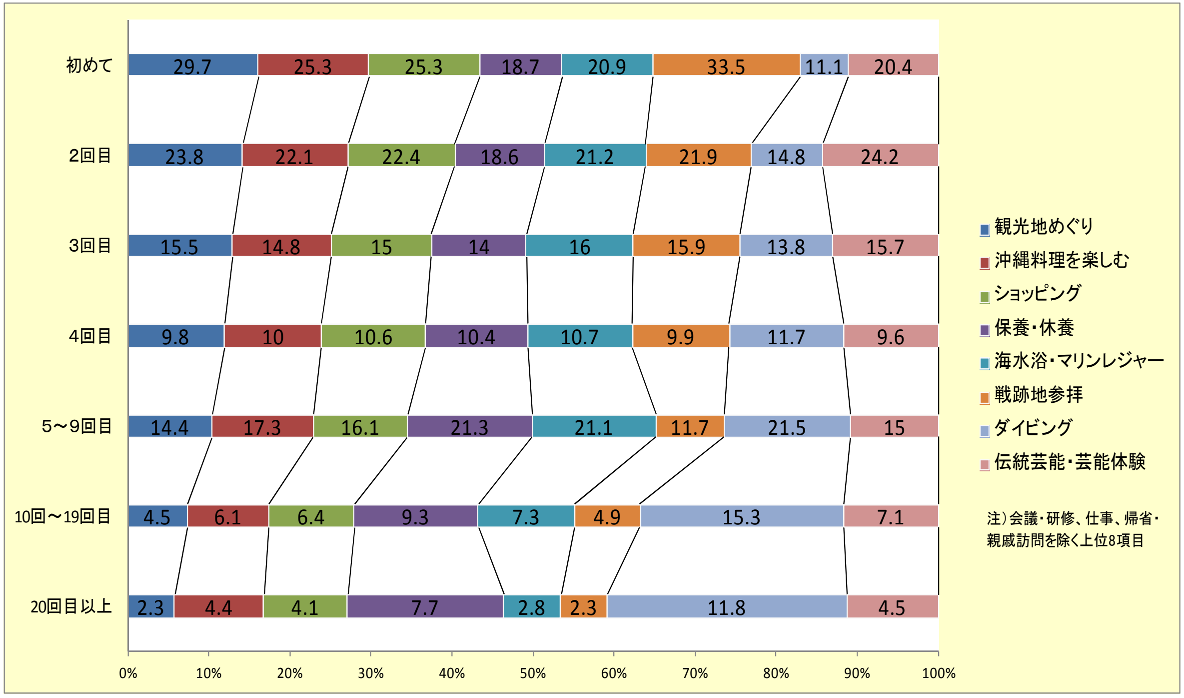
観光地めぐりを基本に、沖縄料理、ショッピング、保養・休養、海水浴・マリンレジャーなどが人気で、近年は保養・休養が増加傾向にあります。



出展：観光要覧・H23 年版

○訪問回数別に見た旅行中の活動タイプ

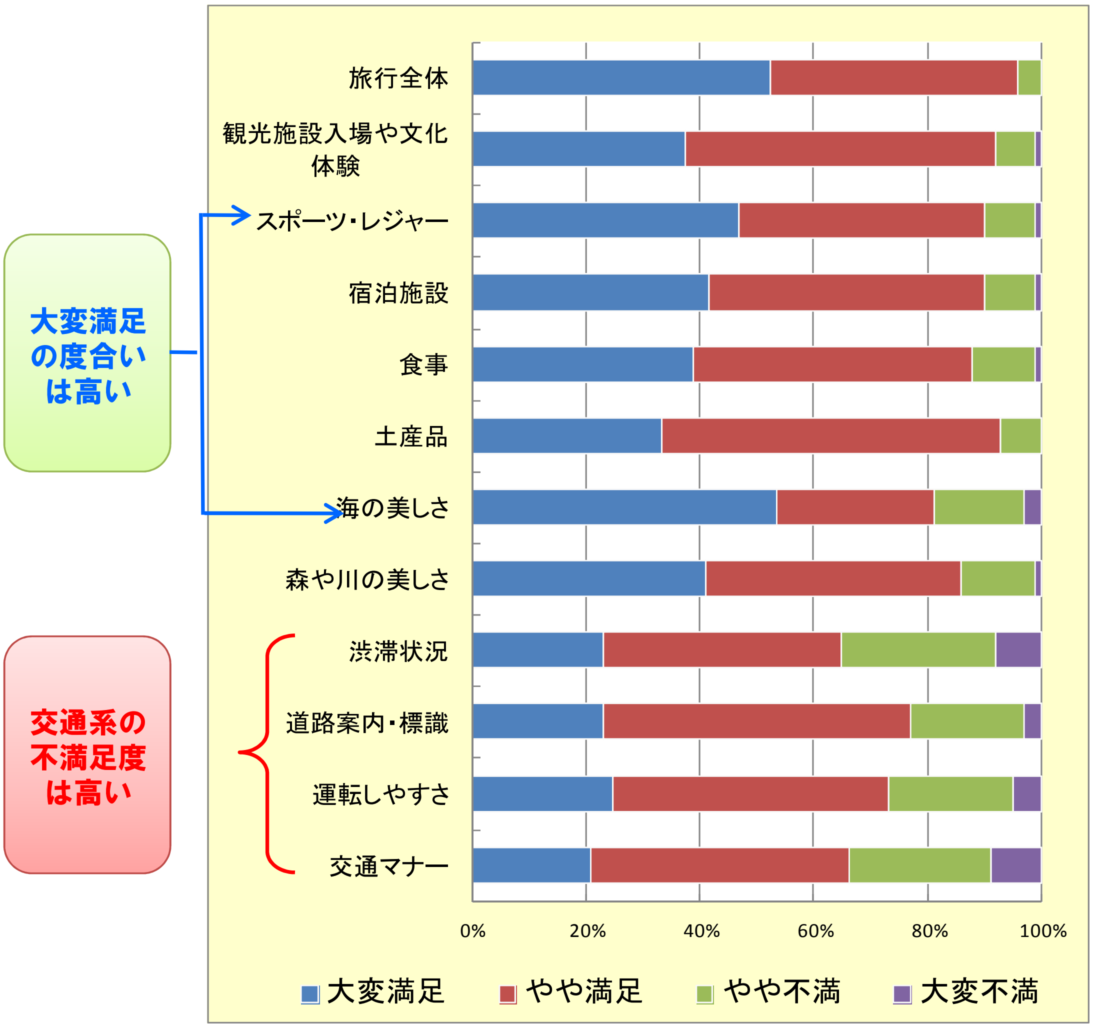
訪問回数が多いほど、「観光地めぐり」や「戦跡地参拝」は減少し、「保養・休養」や「ダイビング」のシェアが増加しています。



出展：観光要覧・H23 年版

⑨旅行の満足度

「旅行全体の満足度」は“大変満足”“やや満足”が9割以上を占めています。「沖縄の海の美しさ」、「スポーツレジャー」の“大変満足”の比率は高くなっています。一方、交通に関しては不満足度が高くなっています。（「渋滞状況」、「交通マナー」など）



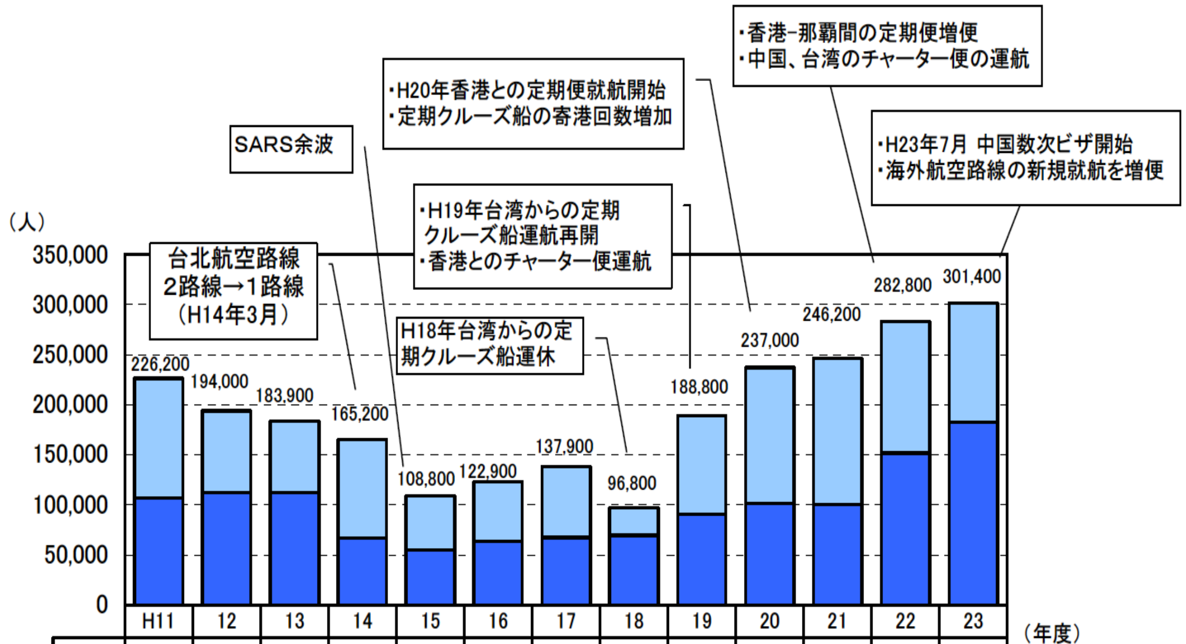
出展：観光要覧・H23 年版

（２）来沖外国人観光客の動向

①外国人観光客の推移

○空海路別

外国人観光客は、H19 より年々増加傾向にあり、H23 年度は中国数次ビザの発給や海外航空各社の航空機増便、新規就航の増加により、過去最高の 30 万人を記録しています。

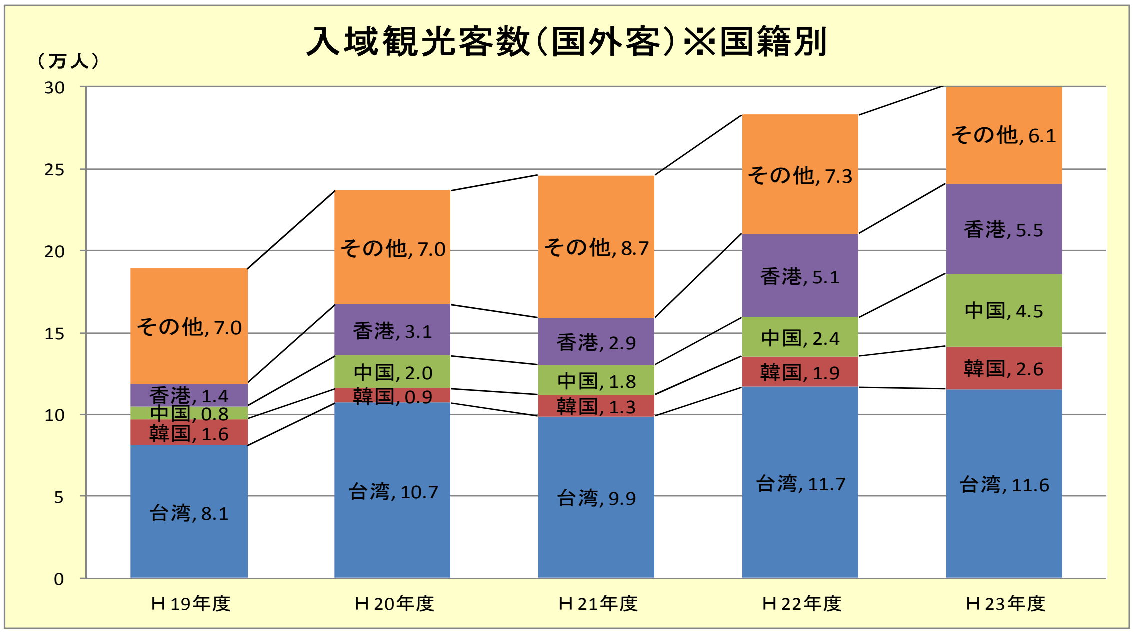


	H11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
海路	119,400	82,000	72,100	98,600	54,300	59,500	71,000	27,300	98,600	136,000	146,300	131,200	118,900
空路	106,800	112,000	111,800	66,600	54,500	63,400	66,900	69,500	90,200	101,000	99,900	151,600	182,500

出展：観光要覧・H23 年版

○国籍別

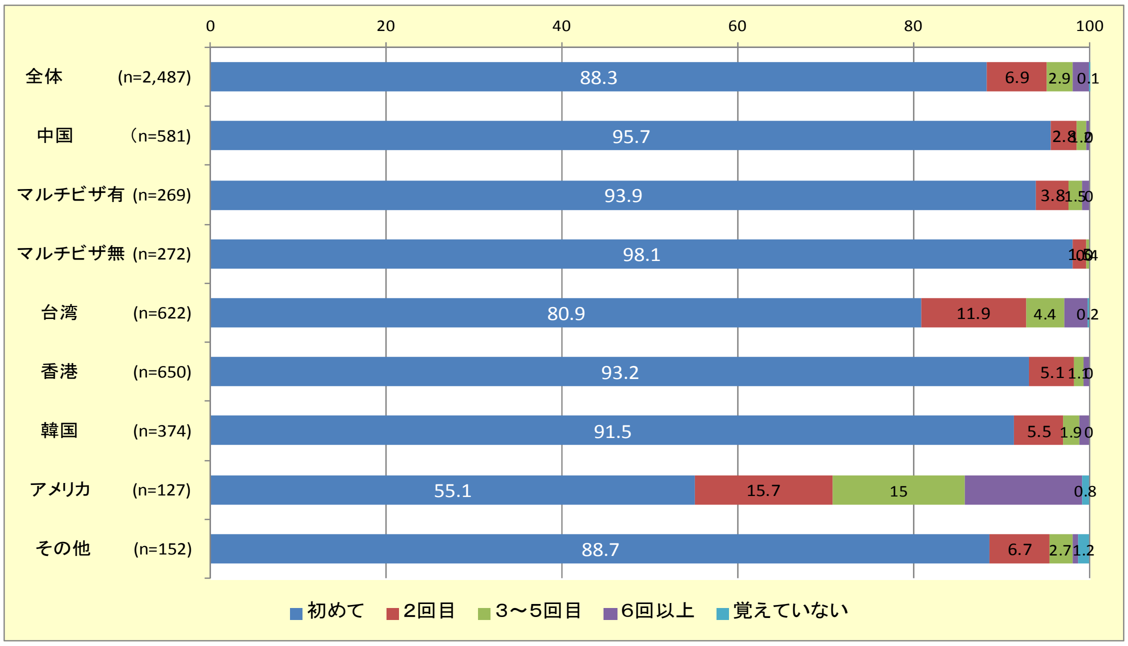
H23 年度は数次ビザの発行により、中国人の観光客数が前年度の2倍に増加しています。韓国、香港も年々増加しています。



出展：観光要覧・H23 年度版

②外国人観光客の沖縄旅行経験（国籍別）

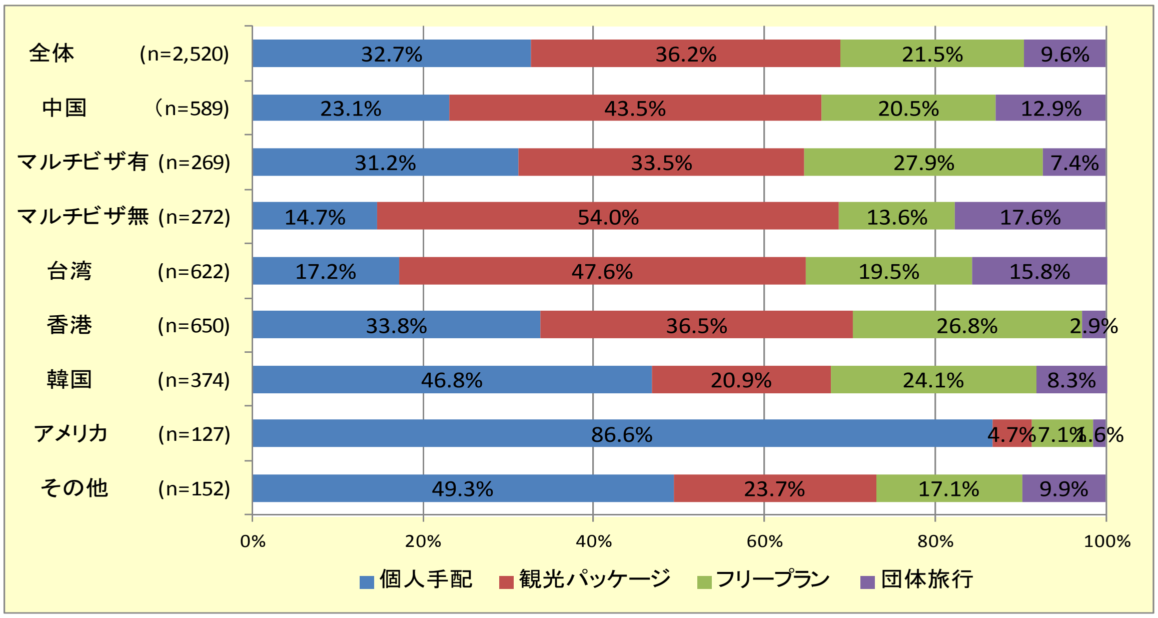
沖縄旅行経験について、全体の約9割が「沖縄旅行は初めて」となっています。



出展：H23 外国人観光客満足度調査報告書

③外国人観光客の旅行形態（国籍別）

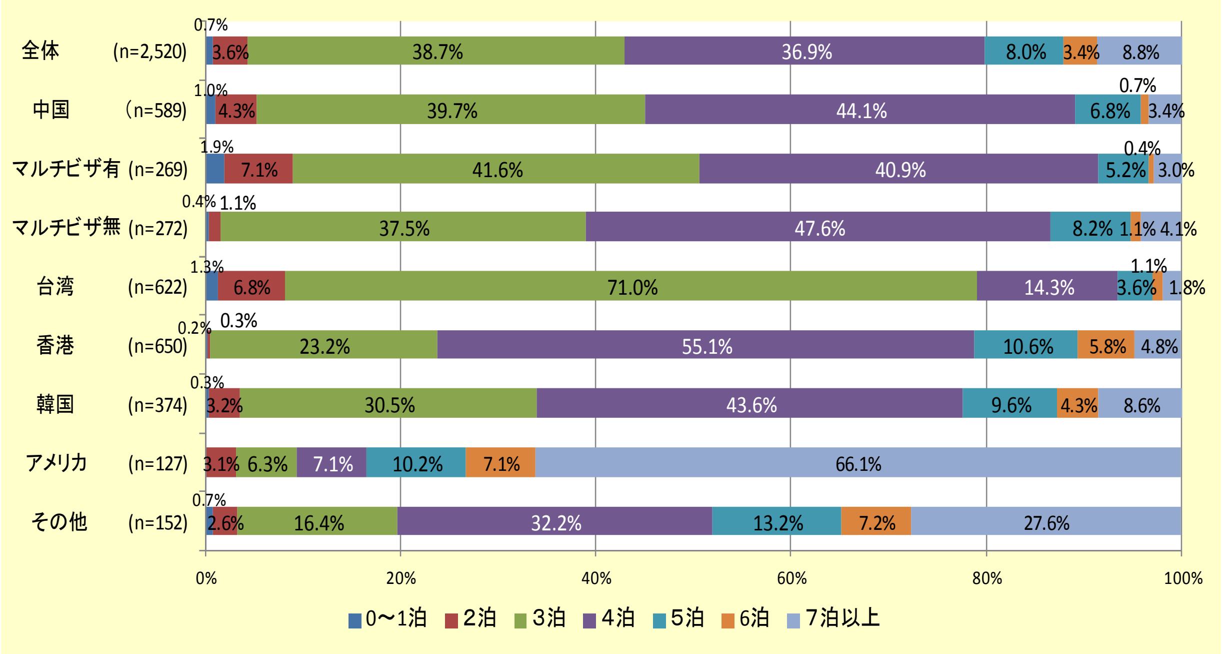
全体では「個人手配」(32.7)と「観光付パッケージツアー」(36.2%)が最も多くなっています。台湾では「観光付パッケージツアー 」が約5割で、香港では「フリープラン型パッケージツアー」が他国籍より多くなっています。韓国は「個人旅行」が最も多いです。中国はマルチビザ利用者の「個人旅行」がマルチビザを利用していない者の約2倍、マルチビザ非利用者は「観光付パッケージツアー 」が半数以上となっています。



出展：H23 外国人観光客満足度調査報告書

④外国人観光客の宿泊数（国籍別）

全体で「3泊」「4泊」の比率が高くなっています。平均宿泊日数は 3.89 泊となっています。台湾は「3泊」が7割を占め、香港は「4泊」以上が8割、中国は3泊～4泊が多っくなっています。



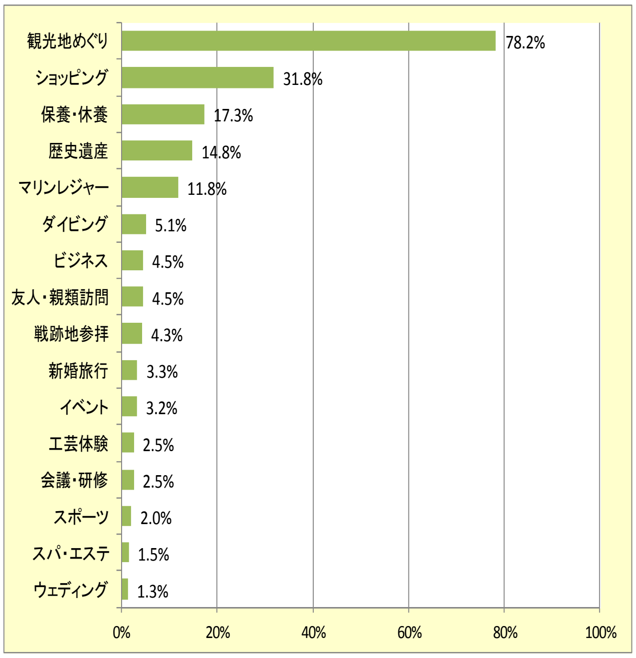
出展：H23 外国人観光客満足度調査報告書

⑤外国人観光客の旅行目的と交通手段

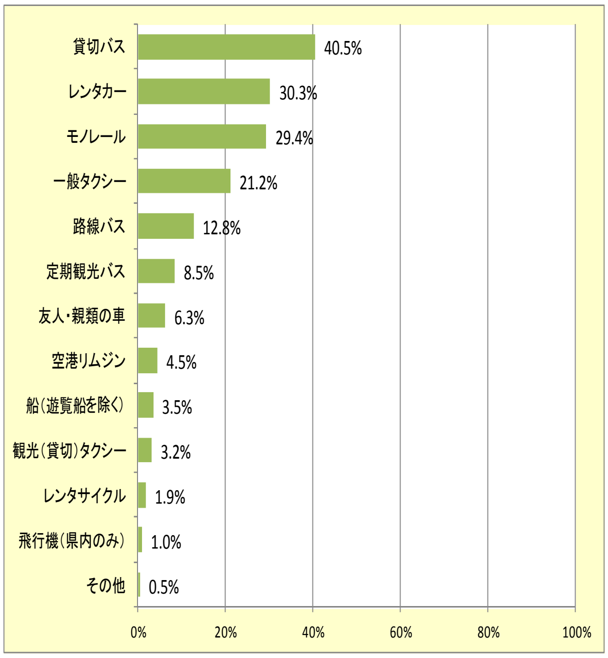
旅行目的は、全体では「観光地めぐり」(78.2%) が最も高くなっています。

交通手段は、全体では「貸切バス」 (40.5%) が高く、次いで「レンタカー」(30.3%)となっています。

・旅行目的



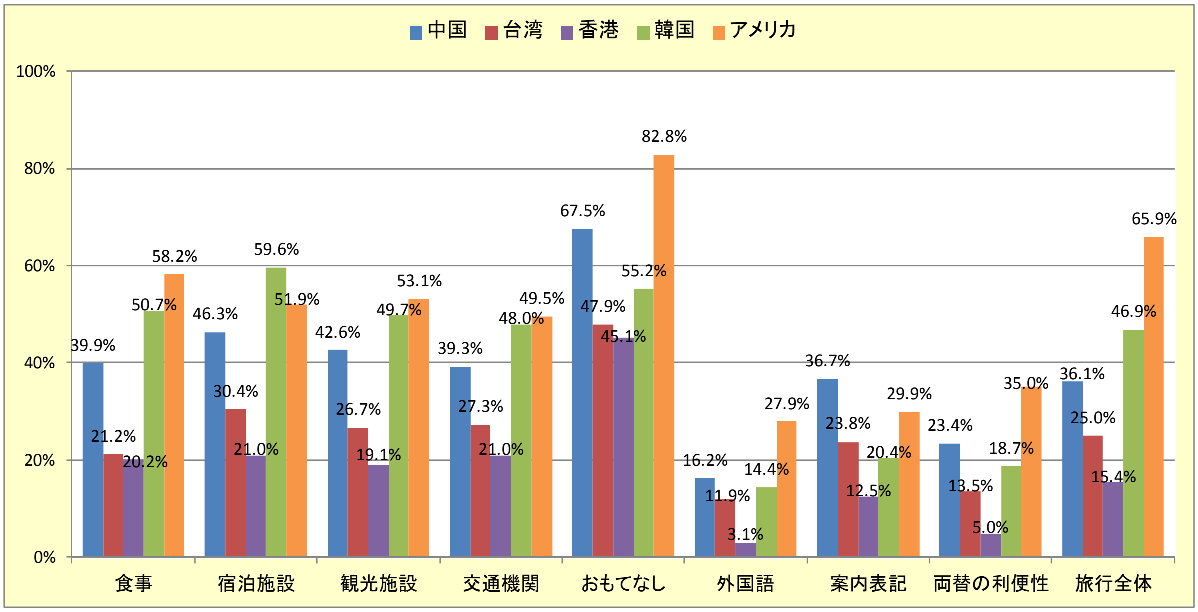
・交通手段



出展：H23 外国人観光客満足度調査報告書

⑥外国人観光客の満足度（国籍別）

沖縄旅行への「満足度」は高評価を得ており（満足とやや満足を足した比率は全国籍で8割以上）、特に「おもてなし」に対する満足度が高くなっています。反面「外国語対応能力」「両替の利便性」「案内表記」に対する満足度が低い結果となっています。



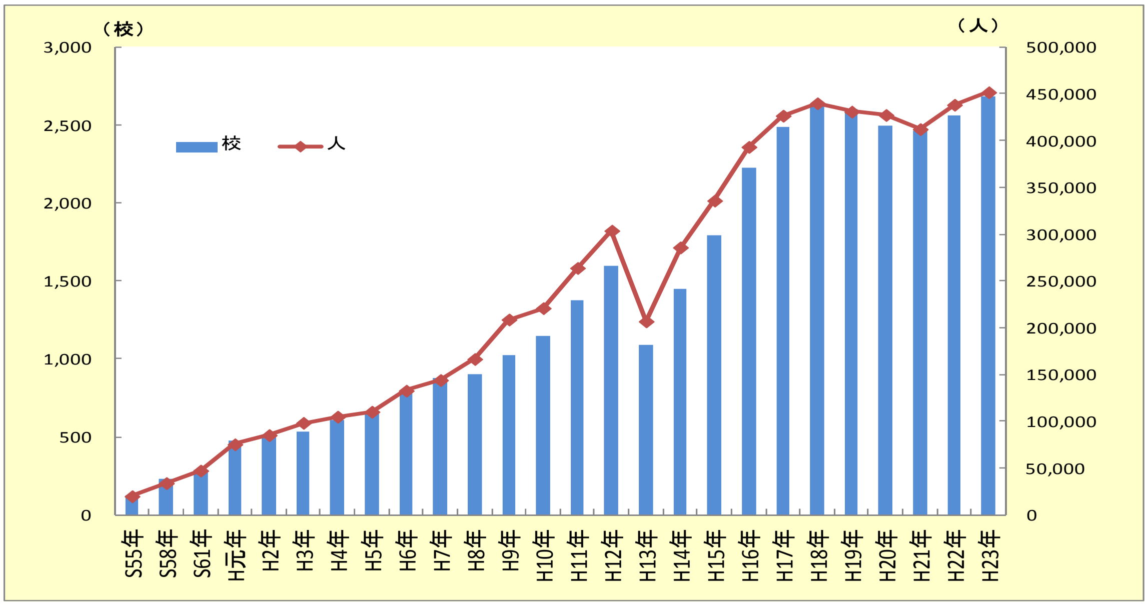
出展：H23 外国人観光客満足度調査報告書

（３）修学旅行の動向

①沖縄県への修学旅行入込実績の推移

○年度別の推移

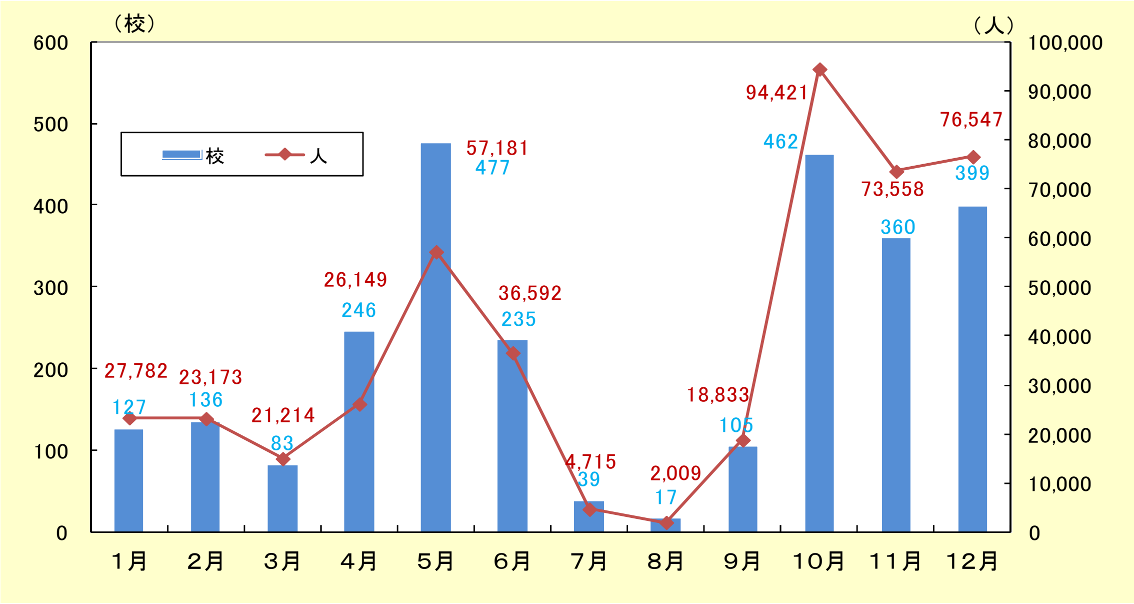
修学旅行数は平成8年頃から急速に伸び始め、一時は同時多発テロ（H13）により落ち込んだものの、その後順調に回復し、平成23年は校数（2,686 校、対前年比+4.8%）、人数（451,550 人、対前年比+3.0%）ともに、過去最高となっています。



出展：観光要覧・H23 年度版

○月別の推移

月別では、5 月、10 月、11 月、12 月など、沖縄観光のシーズンオフ期に多くなっていることから、修学旅行は沖縄観光シーズンオフ期のボトムアップに貢献しています。

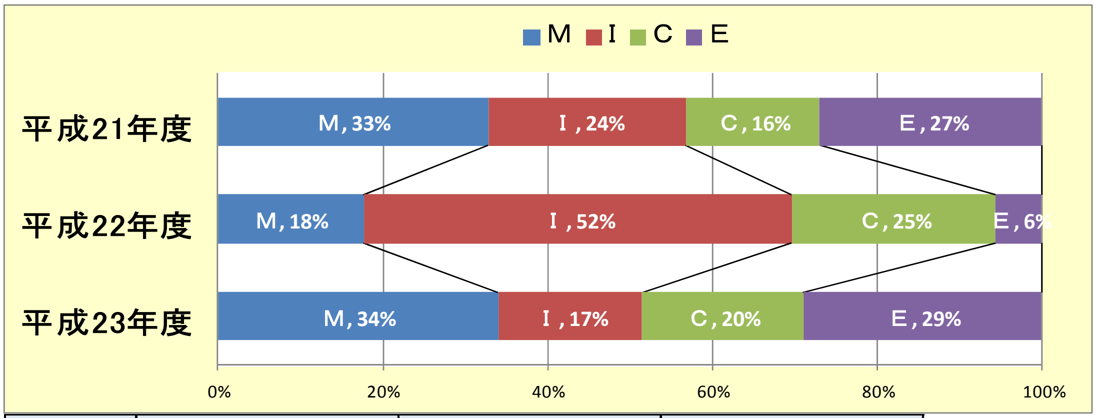


出展：観光要覧・H23 年度版

（４）MICE の開催実績（H21～H23）

①県内における MICE 開催件数の推移（H21～H23）

平成23年度に県内で開催された MICE は 276 件(M:94 件、I:48 件、C:54 件、E:80 件、その他:0 件)となっています。I と C の開催件数が減った一方、M が前年比 31%増(＋22 件)、E が 248%増(＋57 件)となっています。全体的な件数の減少の一因としては、3月に起こった東日本大震災の影響があるとみられ、外国人参加者の減少の傾向が月別の開催件数に反映されています。

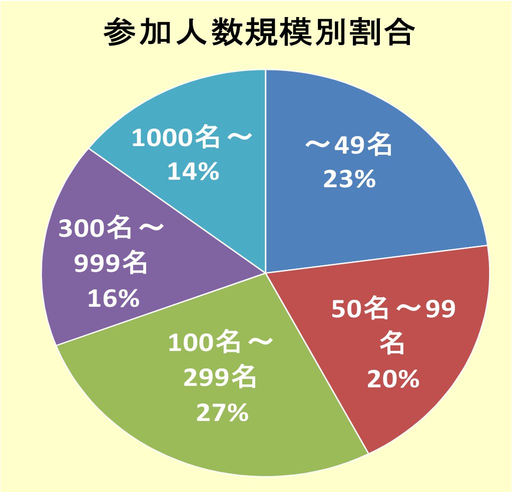


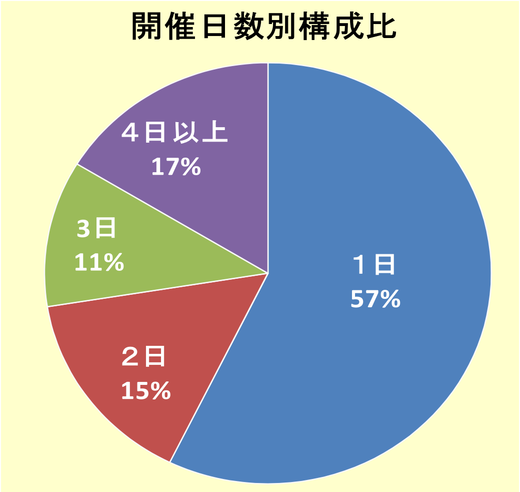
	平成23年度実績		平成22年度実績		平成21年度実績	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
M	94	34%	72	18%	119	27%
I	48	17%	212	52%	87	20%
C	54	20%	101	25%	59	13%
E	80	29%	23	6%	98	22%
その他	0	0%	29	6.6%	80	18.1%
合計	276	－	437	－	443	－

出展：MICE 開催実績及び開催予定統計調査

②県内におけるMICEの規模・日数実績（H23）

平成23年度に県内で開催されたMICEを規模別にみると、参考人数が50名未満の小規模案件と、100～300 名未満の規模のものがそれぞれ約3割を占め、1,000 名を超える大規模MICEも実施されており、さまざまな規模のMICEが開催されています。



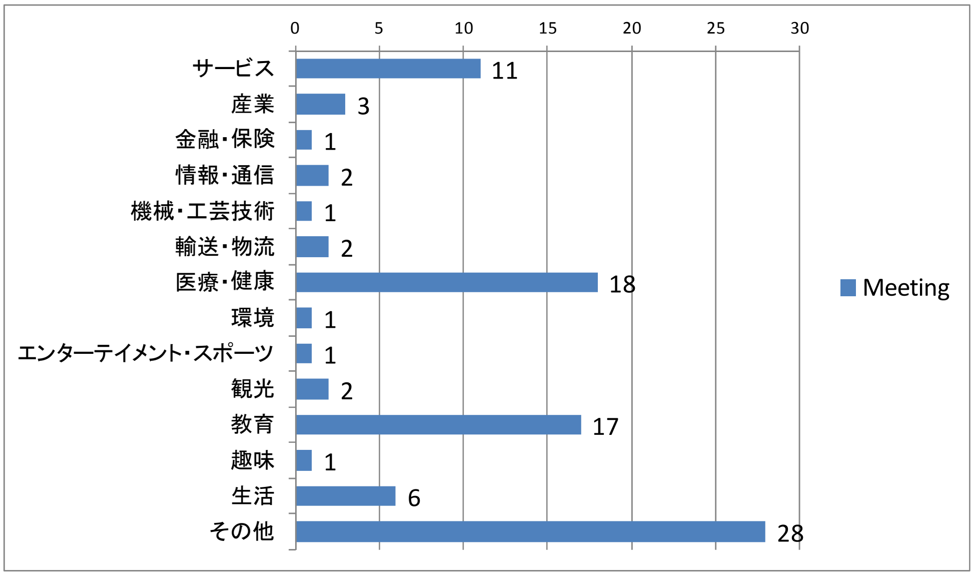


出展：MICE開催実績及び開催予定統計調査

③MICE分野別業種別開催件数

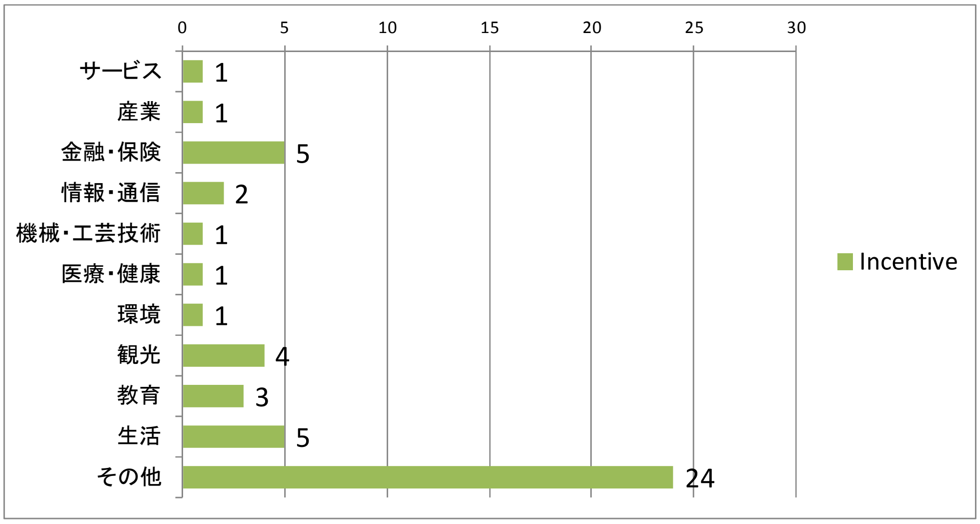
MICEの業種別開催件数は、Mの場合、医療・健康(18件)が最も多く、次いで、教育(17件)の開催件数が多いのが特徴です。Iの場合、金融・保険(5件)、生活(5件)、観光(4件)と僅差の違いはあるもののほぼ同率の開催数となっています。Cの場合、医療・健康(32件)が圧倒的に多く開催されています。Eの場合、エンターテイメント・スポーツ(25件)が最も多く、生活(12件)、サービス(12件)と続いています。総合的に、医療・健康分野が多いことが明らかになっています。

【業種別開催件数　Meeting】

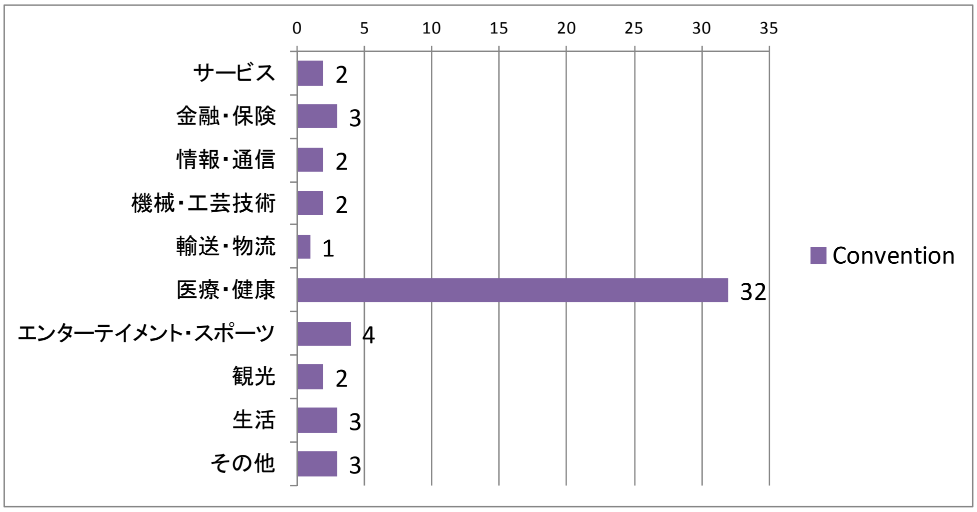


出展：MICE開催実績及び開催予定統計調査

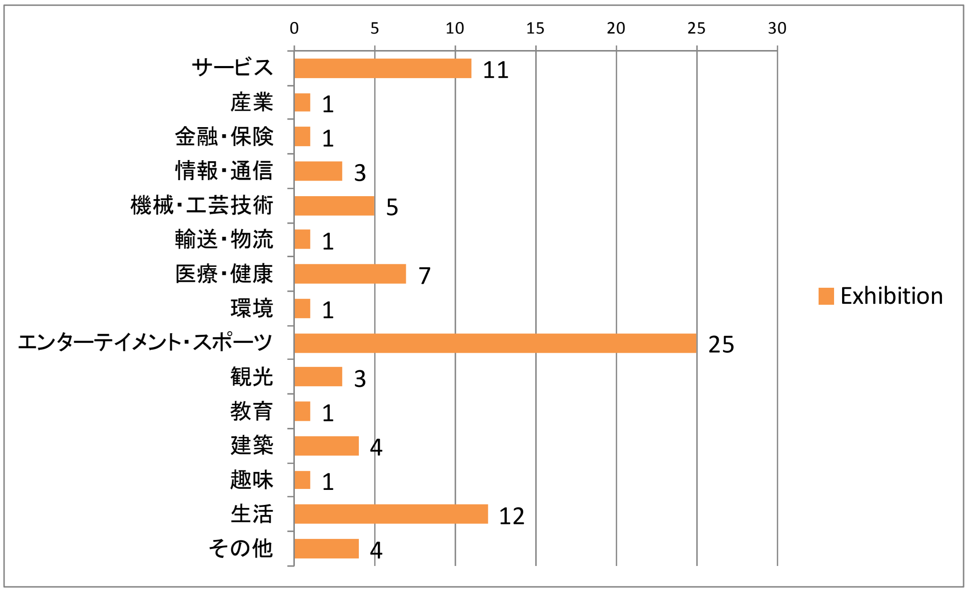
【業種別開催件数 Incentive】



【業種別開催件数 Convention】



【業種別開催件数 Exhibition】

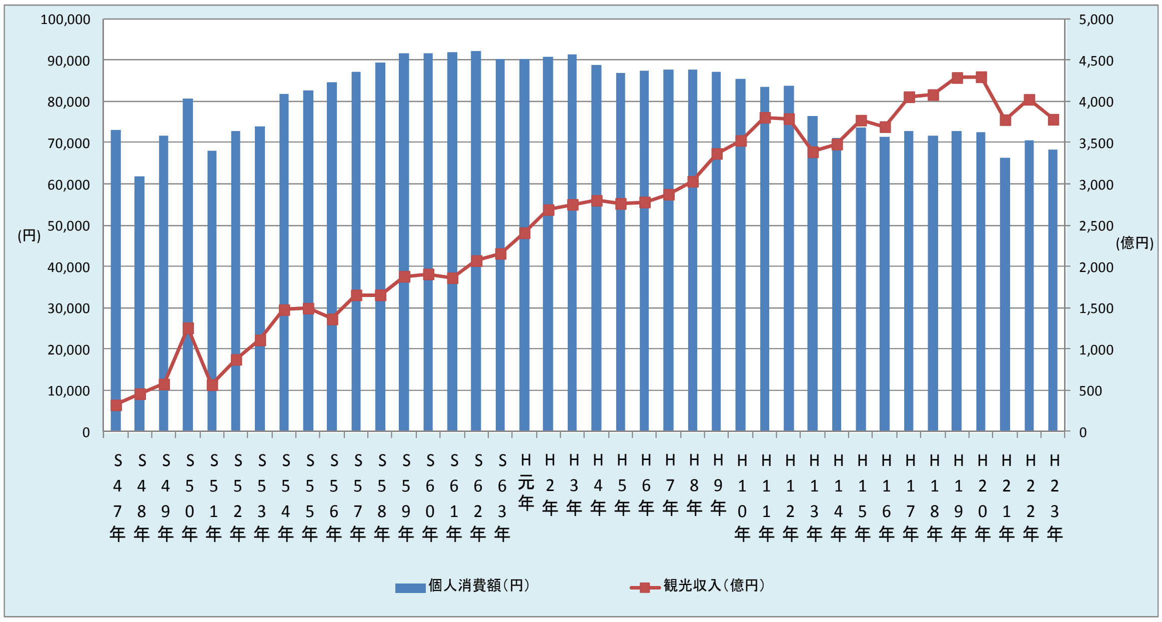


出展：MICE 開催実績及び開催予定統計調査

（５）観光客の消費動向

①観光客一人当たりの消費額及び観光収入

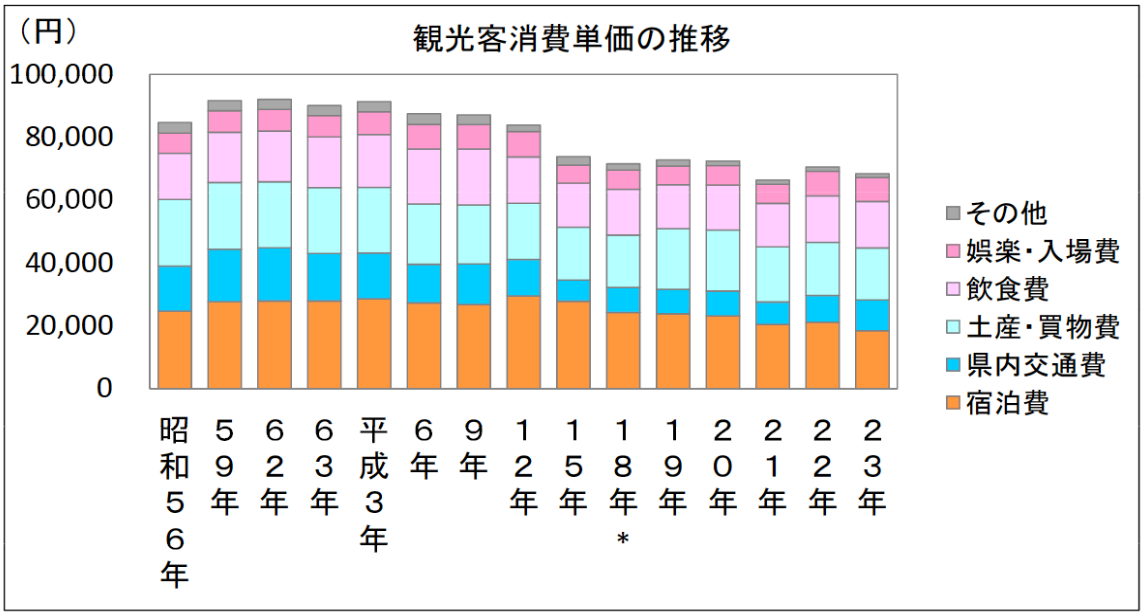
H23年度の観光収入は、3,782 億円 6,400 万円（対前年比6％減、243 億円減）と、前年度実績を下回っています。



出展：観光要覧・H23 年度版

②観光客消費単価の推移

観光客消費単価は21年度に続く低い水準で推移しています。「リゾートホテル」への宿泊比率が減少し、宿泊費が減少 しています。



*平成18年から年度のデータを掲載している

出展：H23 年度観光統計実態調査（概要版）

③年代別の消費動向

60 代以上は土産・買物費、30 代以下は娯楽・入場費が高い傾向にあります。 一人当たりの消費単価は、30代と40代が高く、70 代以上は最も低くくなっています。

県外客一人当たりの費目別消費単価（年代別、単位：円）

	総消費単価	宿泊費	県内交通費	土産・買物費	飲食費	娯楽・入場費
10・20代	66,793	19,360	9,940	14,413	12,847	**9,687**
30代	**72,442**	18,791	**10,649**	15,918	**16,417**	**9,466**
40代	**72,068**	**20,292**	**10,360**	15,212	**16,233**	8,875
50代	66,198	17,657	9,695	16,802	14,613	6,345
60代	68,574	17,645	10,013	**18,449**	14,620	6,239
70代以上	64,609	18,196	8,794	**17,013**	12,098	5,341

※外国人は含んでいない。

出展：H23 年度観光統計実態調査（概要版）

④来沖外国人観光客の旅行消費額

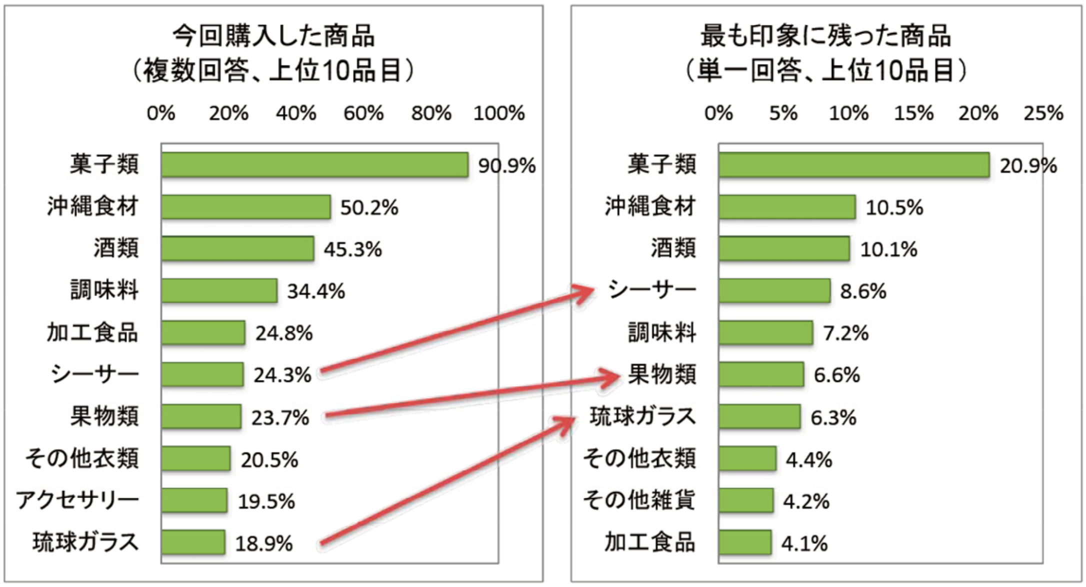
平成 23 年度の来沖外国人観光客の消費額は、176.5 億円と推計されます。 国籍別に旅行支出額をみると、中国が 14.5 万円と最も高く、次いで香港が 8.9 万円となっています。

	a. 沖縄県内における旅行支出額（年度）（円／人）	b. パッケージツアー参加費に含まれる県内収入額（年度）（円／人）	c. パッケージツアー参加費のうち県内収入額を含む旅行支出額（＝a＋b）（円／人）	d. 来沖外客数（年度）（人）	e. 来沖外国人旅行消費額（パッケージツアー参加費内訳を含む）（＝c × d）（億円）
全国籍	72,476	24,251	96,727	182,500	176.5
中国	117,131	28,070	145,201	26,600	38.6
台湾	49,080	27,176	76,256	56,800	43.3
香港	64,191	25,077	89,267	53,300	47.6
韓国	57,393	20,128	77,521	25,900	20.0
アメリカ	71,319	13,851	85,170	6,000	5.1
その他	65,043	22,327	87,370	13,900	12.1

出展：H23 外国人観光客満足と調査報告書

⑤購入した土産品と印象に残った商品

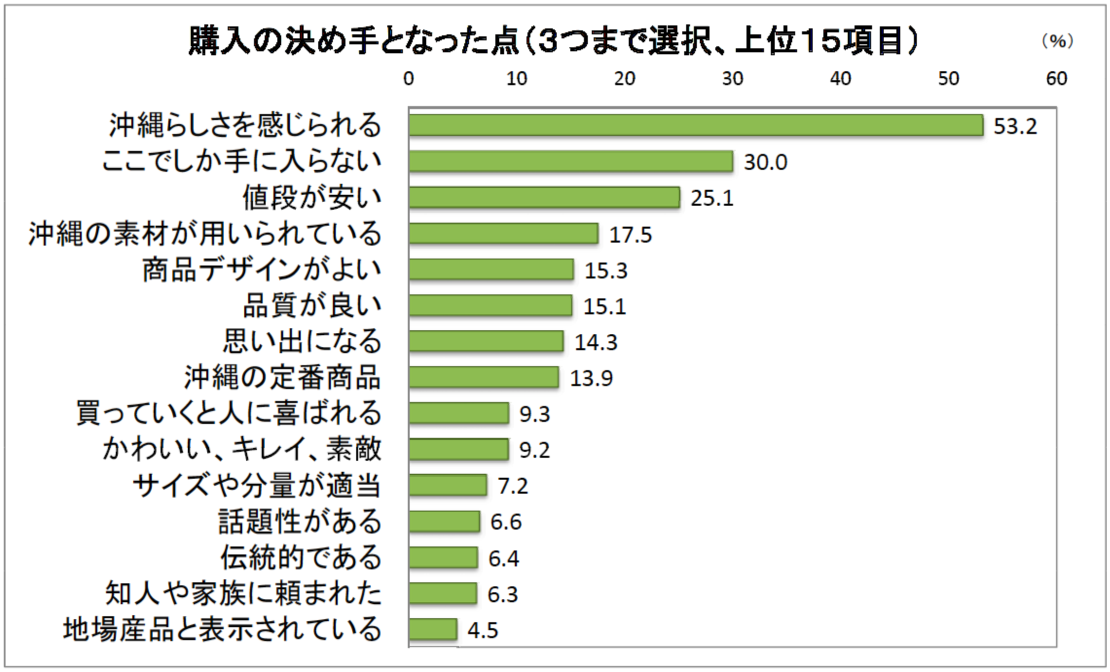
今回購入した商品、印象に残った商品共に食品が上位を占めています。 全体の9割超が「菓子類」を購入、上位5品目を食品が占める。最も印象に残った商品では「シーサー」「果物類」「琉球ガラス」等が上位を占めています。



出展：H23 年度観光統計実態調査（概要版）

⑥購入の決め手となった点

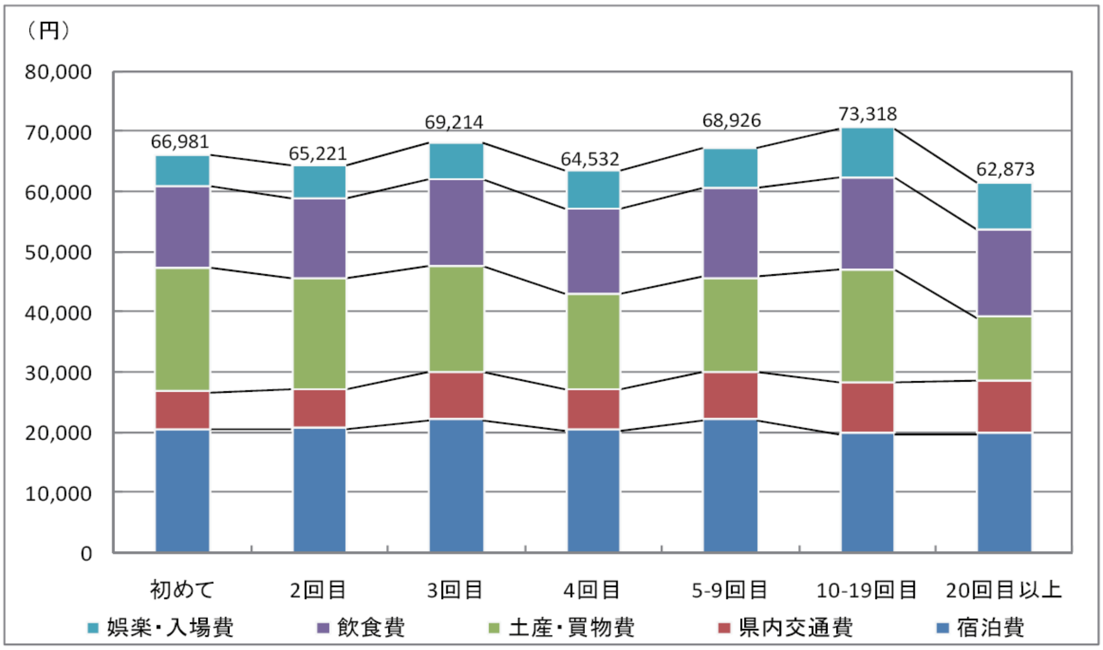
「沖縄らしさを感じられる」が1位、次いで「ここでしか手に入らない」が２位、３位は「値段が安い」で、上位3項目は全ての年代で同じ順位となっています。沖縄独特の土産品が好まれています。



出展：H23 年度観光統計実態調査（概要版）

⑦訪問回数別にみた消費額シェア

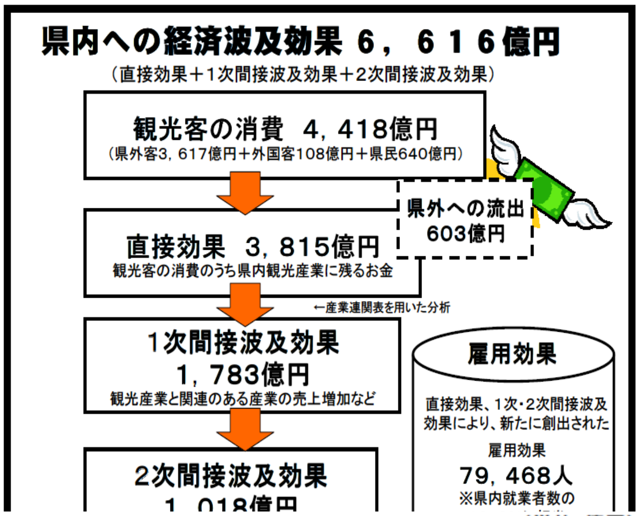
来訪回数別に消費額のシェアを見ると、来訪回数が増加するにつれ、「土産・買物費」のシェアが減り、「娯楽・入場費」「飲食費」のシェアが高まります。



出展：観光収入増加対策緊急調査事業報告書

⑧沖縄県における観光消費の経済波及効果

平成 21 年度の沖縄県における観光消費の経済波及効果は 6,616 億円と推計されます。うち、付加価値効果は 3,383 億円であり、これは平成 20 年度の沖縄県域内総生産（3.7 兆円）の 9.1％に相当します。また、雇用効果は 79,468 人であり、これは平成 21 年度の沖縄県就業者数（61.9 万人）の 12.8％に相当します。付加価値効果が地域内総生産に占める割合を比較すると、沖縄県は他地域と比較し、観光産業の占める割がい大きくなっています。



出典：観光要覧・H23 年度版

（単位：億円）

	沖縄県（H21年度）	北海道（H22）	青森県（H16）	東京都（H16）	京都市（H16）	静岡県（H14）
① 観光消費額	4,418	12,992	1,759	34,870	5,348	7,727
② 経済波及効果	6,616	18,237	2,342	75,750	10,103	9,673
③ 付加価値効果	3,383	9,814	1,331	－	4,336	5,189
④ 域内総生産（平成20年度）	36,973	183,595	44,751	897,149	59,258	164,526
⑤ 誘発倍率（②／①）	1.5	1.4	1.3	2.2	1.9	1.3
⑥ 付加価値効果／域内総生産（③／④）	9.1％	5.3％	3.0％	－	7.3％	3.2％

（６）観光立県に向けて

①観光立国の推進に向けて

・観光客１人当たりの県内消費額の伸び悩み。
・外国人観光客の割合がまだまだ少ない。
・観光施設や食事、土産品は相対的に満足度が低い。
・観光振興と環境保全の両立への要請の高まり。
・国内及び諸外国との誘客競争の激化。
・MICE誘致の国際競争の激化。

必要なのは

✓観光地間の国際競争に対する対応
✓環境問題に対する対応
✓基幹産業としての役割の発揮及び継続的な観光基盤の整備促進
✓観光に対する県民理解のさらなる促進（おもてなしの心）
✓観光旅行者の滞在日数や消費額の増加
✓観光振興に資する人材育成の推進
✓沖縄観光ブランドの構築

②沖縄県観光振興基本計画（第５次　計画期間：H24 年～H33 年）

■計画の目標

本計画は、観光の振興によって真に美しい豊かな郷土の創出を目指す施策を推進するとともに、沖縄全体の今後の目指すべき姿を指し示す沖縄 21 世紀ビジョンで掲げる「世界水準の観光リゾート地」の実現に向けて、沖縄観光が国内外に広く認知される基盤を構築することを目的とする。

■将来像実現の核となる3要素

①島の海・森・生物多様性　―自然―　　②島の歴史・文化芸能　―文化―
③島の安全・安心・快適性　―人・環境―

■施策の基本方向及び施策の展開

1. 多様で魅力ある観光体験の提供　　2. 基盤となる旅行環境の整備
3. 観光産業の安定性確保　　4. 効果的なマーケティング　　5. 推進体制の再構築

H33年度達成目標

・観光収入：1兆円　・観光客１人当たり県内消費額：10万円　・平均滞在日数：5日
・人泊数：4,027万人泊（うち国内客3,152万人泊　外国空路客875万人泊）
・入域観光客数：1,000万人（内国内客800万人 外国客200万人）